

CROWN I

Lesson 1 青い白シャツ

スティーブはアメリカから来た 16 歳の高校生です。
彼はホストファミリーと一緒に住んでいます。
彼は日本語を勉強するために日本に来ました。
それは簡単ではありませんでした。
ここでは、彼が狼狽させられた経験のいくつかを話します。

Part 1

多くの日本語が英語から来ていることを発見したとき、私は本当に驚きました。
たとえば、「spoon」がスプーン、「table」がテーブルです。
これらの単語はカタカナで書かれているので、私にも分かりやすいです。
「日本語を学ぶなんて朝飯前だ」と私は思いました。

しかし私はすぐに、状況ははるかに複雑であることに気づきました。

この前の日曜日、私は散歩に出かけました。
私はコーヒーショップに足を踏み入れ、カフェラテを注文しました。
「マグカップにしましょうか？」と聞かれました。
カップとマグは全く違うものなので、それは（どちらかの）選択なのだと思います。
しかし、そうではありませんでした。
少しして、『マグカップ』は単にマグのことだと知りました。

また別の時に、私は一杯の『サイダー』を注文しました。
アメリカでは、サイダーとはリンゴジュースのことです。
ウェイターがソーダポップを持ってきたとき、私は本当に混乱しました。

Part 2

友人のリョウが私を招待してくれました。

彼はマンションに住んでいると私に言いました。

私にとってマンションとは、まるで宮殿のような大邸宅なので、リョウはお金持ちだと分かりました。

私は着飾って、行くべきだと思いました。

ホストマザーに「ドレスシャツはどこで買えばいいの？」と尋ねました。

彼女は、『デパート』に行くのがよいと言いました。

私はデパートメントストアを見つけて紳士服のフロアに行きました。

店員に「ドレスシャツを探しています」と言いました。

彼女は「おや、ワイシャツをお探しなのですね」と言いました。

「いいえ、ホワイトのシャツは必要ありません。ブルーのシャツが欲しいのです。」

「承知しました、こちらにございます」

最終的に、私はブルーのワイシャツを買いました。

駅でリョウと会って、私たちは普通の分譲アパートまで歩いて行きました。

「リョウ、マンションはどこにあるのですか？」と私は尋ねました。

「これがそうだよ」と彼は言いました。

マンションとは、分譲アパート（共同住宅）のことだと知りました。

Part 3

私のホストファミリーはいつも、海苔・納豆・みそ汁、ご飯の和風の朝食を食べています。それは私にとって申し分のないものです。

しかし、昨日彼らは私を『ファミレス』に連れて行ってくれました。

彼らは私に西洋料理を楽しむ機会を与えたかったのです。

彼らは『ホットケーキ、フライドポテト、ブレンド』を注文しました。

また、再び私は混乱しましたが、同じものを注文しました。

ウェイターがパンケーキ、フレンチフライ、コーヒーを持ってきました。

私は、メニューの中に、奇妙で興味深いデザートがいくつかあることに気づきました、チョコバナナパフェ、ソフトクリーム、シュークリームとか。

朝食後、ホストファーザーが、そのうちに私をバイキングディナーに招待することを提案しました。

私は、バイキングが理解できませんでしたが、とても気になります。

これまで、私はこのような言葉を沢山学びました。

私の先生はそれらを和製英語と呼んでいます。

これらの単語は本物の英語のように見えてもそうではないので、誤解を招く可能性があります。

私はそれらが混乱を招くと分かります。

しかし、混乱は悪いことではありません。

それは新しいことを学ぶための最初のステップです。

最後に、私から皆さんへのアドバイスです。

あなたが和製英語を使った時、ネイティブスピーカーが困惑したように見えても驚かないでくださいね。

Lesson 2 それは、ときめきますか？

片付けコンサルタントの近藤麻理恵さんは、自分の部屋を片付けようと言っています。彼女はその物が「ときめく」時だけ、残しておくべきだと主張しています。

Part 1

沢山のカラフルなペン、新しいパンツ、ファッショナブルな T シャツ、クールなスニーカーなど、物を集めるのは人間の本性です。

私たちは、買う時にはそれらのものが大好きなのです。

しかし、それらを引き出しやクローゼットにしまい込んで、そして忘れてしまいます。

すぐに私たちの生活空間はあまりにも多くのものでいっぱいになります。

引き出しには多すぎる靴下、クローゼットには多すぎる靴。本、本、本。

そのことは失望の原因となり得ます。

私たちの持ち物が私たちにとって、本当に頭痛の種になることが判りました。

私たちはどうすればよいのでしょうか？

近藤麻理恵(略して**こんまり**)には解決策があります。

彼女は幼い頃から自分の部屋をきちんと整頓するのが好きでした。

彼女は雑誌記事の、部屋を整理する方法に心惹かれました。

彼女は自分の部屋を整理するだけでなく、妹の部屋まで掃除して片付けました。

Part 2

大学在学中、こんまりは日本で「片付けコンサルタント」として、活動し始めました。

2014年にアメリカに渡り「こんまりメソッド」を紹介。

彼女は精力的に活動しており、彼女のメソッドは世界中で大成功を収めています。

こんまりの最も重要な原則の1つが、「ときめくモノだけを残す」です。

彼女のクライアント(依頼主)の中には、大量に未読の本を抱えている人がいます。

しかし彼らは、どれを残してどれを捨てればよいかわかりません。

おそらく彼らは、そのうち読むつもりなのでしょう。

しかし、「そのうち」は決して来ません。

こんまりのアドバイスは、一冊ずつ手に取って、それにときめいたら残すということです。

ときめかないなら、それを捨てます。

しかし、(その本に)「ありがとう」と言うのを忘れないでください。

彼女は次のように付け加える、

「あなたはその本を読まなかった、それでもあなたは何かを学びました。

あなたはその本を必要としないことを学んだのです。」

同じことがあなたのすべての持ち物に当てはまります。それが片付けの手順の始め方です。

Part 3

こんまりは、モノを情け容赦なく捨てろと言っているわけではありません。
彼女は自分の持ち物を生き物のように扱います。
高校生だった頃のある日、彼女は新しい携帯電話を買いました。
それから彼女は古い携帯にメッセージを送りました、
「あなたは私を何年もの間助けてくれました。ありがとう」と。
古い電話がすぐに鳴って、彼女はテキストをチェックしました。
もちろん、それは彼女の送ったメッセージでした。
古い電話に、こう言いました、「すごい。あなたに私のメッセージが届いたのね。」
それから彼女はそれを閉じました。
少しして彼女が古い携帯を開くと、画面が真っ黒になっていて驚きました。
彼女の古い携帯電話は、彼女のメッセージを受け取った後に逝きました。
それは役目を終えました。
こんまりは、これがおそらく偶然の一致だったことを認めています。
しかし、捨てる時でさえ、私たちは持ち物に敬意を示すべきだという、彼女の考えが表されています。
私たちは自分の持ち物と非常に密接な関係性を持っています。

Part 4

私たちの持ち物は私たちの選択の結果です。
モノを処分するのがとても難しいことに何の不思議もありません。
こんまりは、私たちが自分自身に、次のように問いかけることを勧めています、
「私がこれを捨てるのに苦労しているのは、過去への愛着のためだろうか、
それとも未来への恐怖のせいだろうか？」
その質問をすることは、私たちが自分の人生における価値を見出すのに役立ちます。
片付けは、単に住まいを快適にするだけの方法ではありません。
それは私たちの価値観を設定し、私たちの未来を決定する方法でもあります。
部屋を整理するとき、私たちは優先順位を設定することを学びます。
古い持ち物を捨てる時、私たちは決断を下すことを学びます。
このように、空間を整頓することは、私たちの生活、さらに仕事や家族にまで大きな影響を与えます。
片付けは私たちの生活を一変させることができます。
あなたが将来について確信を持ってないなら、モノを整理し始めてください。
あなたが本当に興味を持っているのは何ですか？
あなたはこの先何をしたいのですか？
試してみてくださいはどうか？

Lesson 3 希望の卵を孵す

ミヤザキケンスケにとって、アートとは幸福を世界中の人々と共有する方法である。彼は人生を、次の質問への答えを見つける旅だと見なしている、すなわち、『私は人として、そしてアーティストとして何者なのか?』と。

Part 1

私はいつも絵を描くのが大好きだった。高校の春休みの間に、2週間ベルギーを訪れた。私は路上で絵を描いて過ごした。私には彼らの言葉が判らなかったが、通りすがりの人々は私の作品を見て喜んでいるように見えた。私は、人をひとつにまとめるアートの力に気づいた。大学時代、私には夢があった。私は世界中の人々に、素晴らしいアーティストであると認めてもらいたかった。卒業後、私は有名になるためにロンドンへ行った。ロンドンでは、ゲストハウスで住み込みのアルバイトをした。私にはお金があまりなかった。私の絵を受け入れてくれるギャラリー(画廊)はなかった。私のストリートアーティストの友人たち、そして私は、怒りを見せることがクールだと思っていた。彼らは社会の不正に対する怒りを表現していた、そしてその怒りは本物だった。しかし私は、普通の生活を送る普通の家庭の出身だった。私はまったく怒っていなかった。私はロンドンに2年間いたが、それでもまだ有名なアーティストではなかった。私は自分自身を表現する別の方法を見つけねばと決心した。

Part 2

ロンドンで、ケニアのナイロビにある、孤児とストリートチルドレンのための学校についてのテレビ番組を私はたまたま見た。子供たちは不幸そうに見えた。突然、私はケニアに行ってその子供たちのために、何か描きたいという衝動を感じた。それは容易なことではなかったが、ついに2006年私はケニアにたどり着き、その学校を見つけ、子供たちのために絵を描くことができた。私は怒ったドラゴンを描いた。私はそれで嬉しかったのだが、一人の教師が不満を言った、「子供たちはドラゴンに怯えています。学校に来るのを拒む者もいます。」と。子供たちはそれが大きなヘビだと思ったのだ。彼らはドラゴンが架空のものであると知らなかったのだ。私は彼らに「何を描いてほしい?」と尋ねた。「ライオン!」「バオバブの木!」私は子供たちに手伝ってくれるよう頼んだ。一緒に絵を描くのはとても楽しく、教師たちは子供が以前より活発になったと伝えてきた。それが私のキャリアの転換点だった。他者と協力し絵を描くことで、幸福を生み出すことは私の好むところだ。私は、毎年世界のさまざまな地域で、絵画のプロジェクトをすることを心に決めた。

Part 3

2011年の東日本大震災の後、私は仙台のボランティア団体に参加した。学校は閉鎖されていたので、子供たちは何もすることがなかった。彼らは退屈そうだった。私の絵のプロジェクトが、彼らを元気づけるかもしれないと思った。私はこれらの子供たちと作業を始めた。私たちは壁に絵を描いた。岩手県大船渡市の床屋さん(理髪店)から、お店の看板を描くようにと依頼された。私は看板を作るだけでなく、店全体も明るい色で塗ったのだった！私は自分のアートプロジェクトの有用性に疑問を持っていたが、災害に直面した時アートには力がないと思いたくなかった。人々が寄付するお金や物資は大いに役に立つ。しかし一緒に絵を描く作業をして。創造の喜びを共有することもまた役に立つのだ。最悪の状況でさえ、人は笑ったり微笑むことができる。2017年、私はウクライナのマリウポリにいることに気づいた。戦争が続いていた。そこはとても危険な場所だった。毎日人が死んでいった。いたるところに砲弾の穴があり、建物が爆弾によって破壊されるのを見た。

Part 4

マリウポリはアートプロジェクトにとって、安全な場所ではなかった。しかし驚いたことに、私が絵を描き始めると、子供たちがどこからともなくやって来て私に加わった。私たちは大きなミトン(てぶくろ)を描いた。このアイデアは、ウクライナの誰もが知っている民話、マジックミトンに基づいている。ある雪の夜に一人の老人がミトンを落とす話だ。ネズミ、カエル、ウサギ、キツネ、オオカミ、その他多くの動物がたちがミトンにもぐり込んで暖かく過ごす。私たちの絵の中で、世界中から来た人々が、巨大なミトンのぬくもりを分け合っているのが見える。それは生命と希望を表すイースターの卵で飾られている。私たちの絵は、人々の温かい心が希望の卵を孵し、私たち全てに平和な生活をもたらすことができることを示している。私は人として、そしてアーティストとして何者なのか？この質問に対する明確な答えを、私はいまだに持ちあわせていない。しかし、1つ明らかになったことがある。(それは)私のアートには人々を「スーパーハッピー」にする力があるということだ。

Lesson 4 ミステリーを掘り下げる

青森から 4 人の日本人高校生が、オーストラリアのシドニーにある姉妹校を訪れています。彼らはオーストラリアの歴史と文化について学ぶための学習ツアーに参加しています。彼らは日本の先史時代について、プレゼンテーション(発表)をする予定です。翔太が最初の発表者になります。

はじめに：土偶とオーストラリアの洞窟壁画

おはようございます。

昨日、私たちはオーストラリア先史時代の絵画の例を、いくつか紹介していただきました。私たちはとても感銘を受けました。

それらの絵画の中には、日本の先史時代の遺物を想起させるものもありました。

左の写真は土偶の例です (写真 1 を参照)。

それらは縄文時代(紀元前 11000 年頃～紀元前 500 年頃)に作られた土の人物像です。

右側のオーストラリアの洞窟壁画は、恐らくさらに古いものです (写真 2 を参照)。

これら先史時代の遺物の両方に、奇妙で神秘的な何かがあります。

目が離せません。

すぐに日本の小さく不思議な土偶についてもっと多くを話します。

でもまずは、縄文時代の生活について私たちが学んだことを、皆さんと共有したいと思います。

ちなみに縄文時代とは、その焼き物に現れる「縄目文様」にちなんで名付けられました(写真 3 を参照)。

縄文遺跡は日本各地で発見されました。

次の発表者の美咲が、最も重要な遺跡の 1 つである、三内丸山で発見されたものについて説明します。

1. 縄文時代の生活

ありがとう、翔太。

縄文人は書かれた記録を残さなかったので、研究者たちは全国の発掘調査に基づいて、彼らを推測しようとしています。

最も重要な発掘調査の1つは、1992年に青森の三内丸山遺跡で始まりました。研究者たちは、木の柱の残骸が残っている、6つの巨大な地面の穴を見つけました。(写真4を参照)

それらは大きな構造物の土台でした(写真5を参照)。

研究者たちはまた、別の巨大な木造建築物の証拠も発見しました。

おそらく何百もの家族がこの村に住んでいました。

人々が初めてそこに到達したのは、5900年前であることがわかっています。

それまで、彼らはひとつの場所から別の場所へと、(転々と)移動していましたが、そのとき彼らの一部がそこに永久に住むことを選びました。

彼らは動物を狩り、川や海で魚を獲り、ベリーやキノコを採集しました。

彼らは竪穴住居に住んでいて、土の鍋での調理法を知っていました。

縄文人は、骨、石、貝殻で作られた装身具で、身を飾るのが大好きでした。

この村は、おそらく気候変動のため消滅するまで、1000年の間存続していました。

現在、多くの人々がこの場所に戻ってきています。

もちろん、そこに住むためではなく、観光客として。

さて今度は、拓也が土偶についてもっと教えてください。

2. 土偶の謎

美咲さん、ありがとうございました。縄文人はあらゆる種類の工芸品を作りました。

ですが、私たちの発表プレゼンでは、土偶についてお話ししたいと思います。

非常に重要な文化財である5つの土偶を見てみましょう。

1つめの「縄文のビーナス」は、おそらく妊婦を表しています(写真6参照)

2つめの「縄文の女神」は、とても現代的に見えます(写真7参照)

3つめの土偶は、健康な赤ちゃんを祈る妊婦を表していると考える人もいます(写真8)

最後の2つはデザインが独特です(写真9と10を参照)

4つめの土偶の三角形の仮面と、最後の土偶のハート型の顔を見てください。

皆さんは縄文人がなぜ土偶を作ったのか不思議に思うかもしれません。

おそらく彼らは土偶に取りつかれていたのでしょう。

結局、日本中で18,000体以上の土偶が発見されました。

研究者たちは土偶の誕生の真の理由を解明しようとしています。それは今尚、謎のままです。

恐らくそれらは儀式に使われたのでしょう。もしくはただの玩具だったかもしれません。

土偶の本当の目的が何だったのかは分かりませんが、縄文人の生活の重要な一部であったことは判っています。最後に、最終の発表者はあゆみです。

3. 結論：隔たりを埋める

縄文文化は今でも私たちに大きな影響を与えています。

日本の著名な芸術家である岡本太郎は、1970年大阪万博の為に太陽の塔を創作しました。

それはハート形の顔の土偶に、インスパイア（触発）されたものでした。

映画監督の山岡信貴は、縄文文化についての映画を撮影する前に、100カ所の縄文遺跡を訪れるのに5年を費やしました。

彼は言います、

「縄文時代と私たちを隔てる大きな隔たりがあります。

しかし、私たちが縄文時代をもっと知るにつれて、

私たち自身を新たな方法で見えるようにしてくれるものが分かってきます。」

あなたがこれらの土偶を見ると時には、彼らが1万年前の目を通して、

あなたを振り返って見ていることを想像してみてください。」

皆さんはオーストラリア先史時代芸術への興味を、私たちに引き起こしました。

私達が皆さんの日本（の先史時代芸術）への関心を、引き起こせたことを願っています。

来年は青森の私たちのところに来ていただきたいと思っています。

一緒に三内丸山に行くつもりです。

皆さんは縄文文化を間近で見ることでしょう。

ありがとうございました。何か質問があれば、喜んで答えさせていただきます。

Lesson 5 根と芽

ジェーン・グドールは、チンパンジーとの仕事だけでなく、自然保護への取り組みでも有名です。

ここでは、ケンが彼女の人生と仕事についてインタビューします。

Part 1

ケン：

グドール博士、このインタビューに時間を割いていただきありがとうございます。
あなたはアフリカで長い年月をチンパンジー研究に費やしていらっしゃいます。
博士が最初にアフリカへ行く決心をしたのはいつですか？

ジェーン：

ドリトル博士とターザンの本を読んだ後のことでした。
11歳のとき、私はなんとかしてアフリカに行って動物たちと一緒に暮らし、動物の研究をし、動物についての本を書くだらうことを確信しました。

ケン：

いつか動物とともに働きたいという若者はたくさんいると思います。
彼らはどのように準備したらよいですか？

ジェーン：

動物を理解するためにできることはたくさんあります。
彼らを見て、その行動を観察することは非常に重要です。
メモをとったり質問をしたりすることも重要です。
あなたが本当に決心しているなら、本当に一生懸命努力しなければならないでしょう。
あらゆる機会を利用し、あきらめないでください。

Part 2

ケン：

あなたは野生のチンパンジーを観察しながら、沢山のフィールドワークを行いました。彼らはなんらかの点で人間に似ていますか？

ジェーン：

チンパンジーと人間には多くの共通点があり、DNA の 98.6 パーセントを共有しています。彼らの脳は私たちの脳に非常によく似ており、彼らの行動の多くは私たちの行動と似ています。

チンパンジーの家族のメンバー同士は非常に親密で、しばしば互いに助け合います。彼らは悲しみや嬉しさ、恐怖、そして怒りを感じることができます。

ケン：

彼らの性格はどうですか？

つまり、彼らは友好的ですか？ それとも残酷ですか？

ジェーン：たいていは友好的ですが、人間と同じように残酷なときもあります。

ケン：本当ですか？

ジェーン：

オスは自分の縄張りを守るために、別の集団のチンパンジーを攻撃することがあります。しかし、彼らはとても親切で愛情深くもあるのですよ。

ある時、メルと呼ばれるチンパンジーが、3歳ほどで母親を亡くし、ひとりぼっちになってしまいました。

私たちは皆、メルは死ぬだろうと思っていました。

しかし驚いたことに、スピンドルと呼ばれる 12 歳のオスのチンパンジーが、メルの世話をしたのです。

ケン：

どのようにして、お世話をしたのですか？

ジェーン：

メルは彼の背中に乗ったりして、夜には彼の巣と一緒に寝ていました。

メルが求めたら、彼は食料を分けてやりました。

チンパンジーは実に愛情深く、思いやりがあります。

Part 3

ケン：

あなたは自然保護についての講演をしながら、世界中を旅しています。
なにかコメントはありますか？

ジェーン：

はい、私たち人間は野生動物には、生きる権利があることを理解しなくてはなりません。
彼らには自然のままの場所が必要です。
さらに、滅ぼしてはいけないある種の生物がいます。
人間の病気のための多くの薬は植物や昆虫から来ています。
自然のままの地域を破壊したら、おそらく私たちは知らない間に、ガンの治療薬を破壊して
いるかもしれません。

ケン：

なるほど。

ジェーン：

自然界のすべてはつながっています。
植物と動物が生命の全体像を作り上げているのです。
もしそのパターンを壊してしまうと、あらゆることがうまくいかなくなってしまうという
ことになりかねません。

ケン：

それについてさらに詳しくお話ししていただけますか？

ジェーン：

もちろんです。
あるとき、イギリスでウサギが農民の穀物を台無しにしていました。
農民たちはウサギを殺しました。
するとキツネが十分な食べ物を得られなくなり、農家のニワトリを殺し始めました。
農家の人々が今度はキツネを殺しましたが、ネズミが急増してしまい、ウサギが食べたのと同
じくらいの穀物をダメにしまいました。
私たち人間は、環境を破壊してしまう危険と、それによって私たち自身を破壊してしまう危
険にさらされています。

Part 4

ケン：

あなたは私たちの将来が心配ですか？

ジェーン：

はい、そうです。

しかし、私の希望は若い人たちにあります。

だから私はルーツアンドシューツを始めることにしました。

それは 1991 年にタンザニアの高校生のグループから始まりました。

これが Roots & Shoots と呼ばれるのは、根 (roots) が岩の間を通り抜け水にたどり着けるからです。そして芽 (shoots) は壁を突き破って日光にたどり着けます。

岩と壁とは人間がこの地球に引き起こした問題です。

ケン：

それは若者向けのクラブのようなものですか？

ジェーン：

はい。現在、世界中にグループがあり、それぞれのグループは 3 つの計画を選択します。

人を支援する計画、動物を支援する計画、そして環境を支援する計画です。

悲しんでいる人を笑わせたり、イヌのしっぽを振らせたり、渴いている植物に水をあげたりすれば、世界はもっとよい場所になります。

それが Roots & Shoots のすべてです。

ケン：

最後に一言お願いできますか？

ジェーン：

人々は、毎日行う小さな選択の結果について考えるべきです。

何を買うか？ 何を食べるか？ 何を着るのか？

あなたはたった一人ですが、あなたがすることは全世界に影響を及ぼします。

あなたが起こす変化は小さいかもしれませんが、もし千人の、それから 100 万人の、そしてついには 10 億人の人々みんながこれらの変化を起こしたらなら、大きな違いをもたらすことになるでしょう。

ケン：

グドール博士、あなたの考えを私達にお話しして下さり、本当にありがとうございました。

Lesson 6 あなたとあなたのスマートフォン、責任者はどっち？

スマートフォンは私たちの生活を変えています、常に良いものとは限りません。間違った使い方をすると危険性があります。スマートフォンを健康的に使っているかどうかを、注意深く調べてみましょう。

Part 1

どこを見ても、人々がスマートフォンを覗き込んでいるのが見えます。彼らは自分だけのプライベートな世界の中にいます。こういった光景はあまりにもありふれたものになり、私たちはもはやそれが奇妙なものだと気づきません。世界で 40 億人以上が、スマホを使っていると推定されています。日本では、スマートフォンを所有する人が急増しています。2011 年には、全人口の 14.6% だけがスマートフォンを使用していました。2018 年までに、その割合は 64.7% に増加しました。日本の 10 代の若者はインターネットのためだけに、スマートフォンを平均して 1 日 143 分使っていますが、20 代の人々は同じ目的のために 129 分を費やしています。これらの数字は、現在私たちがデジタルの世界と現実の世界が会う、新しい文化の中に生きていることを示しています。

Part 2

私たちがスマートフォンを使わない日はありません。過去 10 年間で、私たちはスマートフォンによって人との関わり方、ひとりで楽しむ方法、そして日常生活の出来事を処理する方法など、多くのことを（今までと）違ったやり方で行うようになりました。（＝それらは私たちに多くのことを違ったやり方でさせてきた）テキストメッセージ(SMS)、電子メール、ソーシャルメディア(SNS)、及びビデオチャット(テレビ電話)により、私たちは友人や家族が地球の裏側(地球半周先)に住んでいようとも、常に連絡を取り合うことができます。スマートフォンを使えば、見たいときに映画を見ることができます。私たちは音楽を聴くことができます。ビデオゲームができます。スマートフォンの技術は確かに私たちの生活を、より豊かで快適なものにしてくれました。これらすべてのメリットに加えて、スマートフォンは多くの実用的なサービスを提供してくれます。例えば、銀行業務を行うために銀行に行く必要はありません。緊急時に警察官や消防士は、救助が必要な場所をただちに見つけられます。また、スマートフォンを使って街を巡る経路を見つけたり、タクシーを呼んだり、スニーカーの価格をチェックしたりしています。1 日の歩行距離や消費カロリーを、モニターできるアプリまであります。

Part 3

スマートフォンは私たちの生活を、より豊かで快適なものにしてくれました。

しかし多くの研究者が、スマートフォンの使用による悪影響について報告しています。

ごく幼い子供たちを楽しませるためにスマートフォンを使用すると、彼らの発達に悪影響を与える可能性があります。

完全な精神的および肉体的発達のために、子供たちは他の人々や現実の世界と接触する必要があります。

それは子どもの発達の問題だけではありません。

10代の若者や大人もまたリスクに直面しています。

スマートフォンは私たちを注意散漫にする可能性があります。

それらは私たちの注意を向けさせるために、常に鳴り響いて賑やかです。

実際、サイレントモードの場合でさえ、(スマホは)私たちの気を散らす可能性があります。

ある研究で、800人が数学の問題を解くよう求められました。

彼らは次の3つのグループに分かれていました、

- (1) スマートフォンを別の部屋に置いてきた人
- (2) スマートフォンをポケットに入れていた人
- (3) スマートフォンを目の前に置いた人

結果は、グループ1が最もよく、グループ2がそれに続き、グループ3は最もひどいものでした。

スマートフォンは、人々がどれだけ注意を集中できるかに関して影響がありました。

Part 4

スマートフォンは私たちの生活をととても楽にしてくれるので、精神的に怠惰になる可能性があります。

私たちはもはや会合や日付を覚えようとさえしません。

私たちはスマートフォンを使ってインターネットに接続します。

ニュース、学校のレポート、そして世界の出来事を理解するために、インターネットに依存しています。

私たちの中には、インターネットが非常に使いやすいため、本や新聞の代わりに主要な情報源としている人もいます。

これは、精神的な怠惰のもう1つの形です。

さらに悪いことに、インターネットは嘘を広めることがあります。

何を信じ、何を信じるべきでないのか、私たちには分かりません。

インターネット上で目にするものすべてを信じることは、怠惰であるだけでなく、危険でもあります。

私たちは自主的に考える能力を発達させなければなりません。

私たちのスマートフォンは私たちに、そのスキルを教えることはできません。

私たちは、デジタルの世界が現実の世界と出会う新しい文化の中で生きています。

そして、私たちはスマートフォンが、私たちの精神的および社会的生活に与える影響を理解し始めたばかりです。

これらの新しいテクノロジーの影響をよりよく理解するまでは、スマートフォンの使用の制限について考えたほうがよいでしょう。

「何事もほどほどに」は、悪い考えではないかもしれません。

Lesson7 アラスカに生きて

星野道夫(1952-1996)は有名な自然写真家です。

彼はアラスカの野生生物の素晴らしい写真を数多く撮影しました。

ここでは彼がアラスカとその人々、そしてディスタント・ネイチャー（遠く離れた自然）について話します。

Part 1

私は大学1年生の時、人生を変える写真に出会いました。

それはアラスカの小さな島にある、シシュマレフという小さな村の美しい写真でした。

最初、こんな辺鄙な場所に人が住めるなんて信じられませんでした。

しかし私は地図でその村を見つけると興味が出てきて、無性にこの小さな村に行きたくなりました。

私は手紙を書くことにしましたが、村の誰ひとり知りませんでした。

そこで私は「シシュマレフ市長様」と書いて、私を泊まらせてくれるかもしれない家族を紹介してくれるよう依頼しました。

半年後、おいで下さいという招待の返事を受け取りました。

1973年、私はシシュマレフに行き、エスキモーの家族と夏を過ごしました。

私は彼らと同じ食べ物を食べ、いっしょにカリブー狩りにも行きました。

地元の人からよく「エスキモーボーイ」と呼ばれました！

毎日が私に新しい経験をもたらすようでした。

私はアラスカに住んで、こんな人里離れた場所でさえ、私たちが日本にいる時と同じように、人々が日常の生活を送っていることが分かりました。

Part 2

大学卒業後、私は写真家として2年間働きました。1978年、再びアラスカに行きました。

私の計画では、写真を撮りながら5年程滞在する予定でしたが結局、18年住んでいます。

なぜ私はこんなにアラスカが好きなのでしょう？

もちろん、そこには偉大な自然があります。

アメリカには他にも、グランドキャニオンやイエローストーンのような素晴らしい国立公園があります。しかし、これらの公園のすぐ外には、都市や町があります。

アラスカには、広大な荒野の広がりしかありません。

アラスカはいつでも冬だと思われるかもしれませんが、実際には、むしろはっきりとした季節の移り変わりがあります。私はフェアバンクスに住んでいます。

1月の太陽は朝10時過ぎに昇り、午後2時前には沈みます。

平均最低気温は氷点下約24度です。日が長くなるにつれ、人々は春の到来を感じます。

雪が融け始め、川面では氷が砕け、全世界が変わっていくようです。

夏には、太陽は昼も夜も地平線の上にあります。7月の平均最高気温は23度です。

秋、人々は冬の準備をします。多くの人々が森で摘んだベリーからジャムを作ります。

Part 3

エスキモーは、ベーリング海の氷が砕け始める 4 月にクジラ狩りに出かけます。
1983 年、ポイントホープで初めてクジラ狩りに行きました。
ハンターたちは冰山の上でクジラを待ちます。
その瞬間が来ると、彼らは「ウミアック」と呼ばれるボートに乗って漕ぎ出します。
彼らのクジラ狩りは、いつも成功するとは限りません。
しかし運が良ければ、村人全員が走って来て、クジラを氷の上に引き上げます。
エスキモーの老婦人がやって来て、海からの贈り物に感謝するために、踊って歌うのを見たことを今も覚えています。
クジラが氷の上に置かれると、村の長老が祈りを上げます。
それから若者たちが、長老の指示に注意深く従って、クジラの切り分けを始めます。
肉はすべての村人に分け与えられ、最後にクジラの巨大な頭骨を海に戻し、
「来年また戻って来い！」と言います。

Part 4

長年アラスカに住んでいて、自然には近くの自然と遠く離れた野生の自然の 2 種類がある
と思うようになりました。
近くに小さな公園があると快適に過ごせます。
それは非常に重要です。
しかしアラスカについて考えると、遠く離れた自然が心に浮かびます。
アラスカは、この世の始まりからずっと野生生物の故郷でした。
私は、広大な荒野の広がり渡るカリブーの季節ごとの動きに最も惹かれます。
毎年何万頭ものカリブーが、極北アラスカ（アラスカの北極圏）を旅します。
遠く離れた自然のことを考えると、カリブーなどの野生生物がいなくなったら、どうなるの
だろうと思うことがあります。
「誰が気にするの？ カリブーを探すためだけに、そんな遠くまで行く人などいないよ」
と言う人もいます。
確かに、たとえカリブーがすべて死んでも、あなたの日常生活は変わらないでしょう。
しかし、あなたは大切な何かを失うかもしれません。
それは「あなたのイマジネーションの中にある遠く離れた自然」です。
まさにこの瞬間、そこでは、あらゆる種類の野生生物がその生命を全うし続けていると想像
してください。
素晴らしいことではないですか？
このイマジネーションという行為は、あなたを自由にし、あなたの人生を豊かにします。
私が知る限り、遠く離れた自然は、近くの自然と同じくらい大切なのです。

Lesson 8 それほど遠くない昔に

高校生のグループが 20 世紀の写真展を訪れています。
美術館のガイドが生徒たちに話しかけます。

Part 1

本日は皆さんを 20 世紀に連れ戻したいと思います。
皆さんにとっては古代の歴史のように思えるかもしれませんが、実はそれほど遠い昔のことではありません。
この展覧会の 300 枚の写真が私たちに前世紀の歴史を示してくれます。

20 世紀は科学と通信の分野でめざましい進歩が見られた時代でした。
人々の生活はより豊かに、そしてより快適になりました。
さらなる自由と平等を手に入れ、幸福な人生を送るという夢に近づいたかのように思えました。

しかし、それはひどい戦争の時代でもあり、数千万人もの人々が命を落としました。
ここにある写真は、あなたや私のような人が 20 世紀に経験した事を見せてくれるでしょう
それらをご覧になりながら、ご自身に問いかけてみてください。

「もしこれらの写真に写っているのが自分の家族や友人だったらどんな風を感じるだろうか」と。

ショックを受ける人もいるでしょう、悲しんだり怒ったりする人もいるでしょう。
しかしそれらはまた、私たちの未来へのメッセージも与えてくれます。
まず最初に、私たちにとって特に重要な 2 枚の写真をお見せしたいと思います。

Part 2

この写真はアメリカ人フォトジャーナリスト、ジョー・オダネルによって、1945年に長崎で撮影されたものです。

彼はこの写真について日本のインタビュアーに次のように話しました。

「私は10歳くらいの男の子が歩いていくのを見かけた。その子は赤ちゃんを背負っていた。その頃の日本では、子どもたちが弟や妹を背負いながら遊んでいるのをよく見かけたが、この男の子は明らかに様子が違った。彼は深刻な理由でこの場所に来たのだ、ということが私には分かった。彼は靴を履いていなかった。彼の表情は険しかった。赤ちゃんの小さな頭はまるでぐっすり眠っているかのように後ろに倒れていた。」

「その少年はそこに5分から10分ほど立っていた。白いマスクをつけた男たちが少年に近づき、赤ちゃんを背負っていた紐を静かにほどきはじめた。そのとき、私はその赤ちゃんがすでに死んでいると分かった。男たちは遺体の手と足をつかんで火の上に置いた。」

「少年はじっと動かずまっすぐ立って炎を見つめていた。下唇をあまりにも強く噛しめていたので、血がにじんでいた。炎の勢いは、そのうち太陽が沈むように衰えた。少年は踵を返し、静かに立ち去った」

数年後、オダネルは

「子供たちや母親たちが、戦争に勝つためなんかに死ぬ必要はなかった」と述べた。

Part 3

では、この写真をご覧ください。見たことのある方もいると思います。
ベトナム戦争中の1972年に撮られたものです。
ここに写っている少女、キム・フックは、服が焼け落ち、痛みの中、道を走り抜けています。
この経験について彼女はかつて次のように語りました。

「なにも聞こえませんでした、でも私の周囲に火が見えました。
そして突然、炎のせいで服が焼け落ちたのです。炎が私の身体、とくに腕を包み込みました。
でも足には火がつきませんでした。私は泣き叫んで、火から逃げ出しました。
私は走って、走って、走り続けました。」

「私は病院にいました。14か月。全身の半分におよぶ火傷を治すために
17回もの手術を受けました。
そしてその経験が私の人生を変えたのです。
その経験がきっかけで、どうしたら人を助けることができるかを考えるようになりました。」

「両親が新聞に載ったその写真を初めて見せてくれたとき、
私はそこに写っているのが自分だとは信じられませんでした。
あまりにも悲惨な姿だったから。私はその写真を皆さんに見てほしいのです。」

なぜなら人はその写真から、戦争がどんなものかを見て取ることができるからです。
子どもたちにとっては悲惨なことです。私の顔を見れば全てが分かるでしょう。
私はみなさんにこの写真から多くのことを学んでほしいのです。」

Part 4

このように、写真というものは多くのことを私たちに語っています。
過去になにが起きたかを見せてくれます。
時には私たちが見たくないかもしれないものまで見せます。

20 世紀は戦争の時代でした。
2つの世界大戦があり、冷戦があり、世界中の至る場所で小規模の争いが起きました。
ある日本人ジャーナリストは 20 世紀を「36,000 日の苦悩」と呼んだほどです。
ここにある写真に希望の兆候を見つけることは難しいかもしれませんが、努力すればできるはずです。

キム・フックさんの話がよい例です。
沢山の人々の温かい支えにより、彼女はいまカナダで幸せな家庭生活を楽しんでいます。
彼女は、
「私は息子に、自分の母親とその祖国に何が起きたか見せなくてはなりません。
そして戦争が再び起きてはいけないということを伝えなくてはなりません」
と話しています。

21 世紀が始まった時、私たちの多くは平和の世紀になることを望みましたが、戦争は続いています。
しかし、まだ変革する時間はあります。
過去からの教訓を学ぶことができれば、歴史を繰り返す必要はありません。

今日のこの展示会であなたが目撃した内容は、そんなに昔のことではないことを覚えておいてください。

Lesson 9. 私たちの失われた友人

イースター島（ラパ・ヌイ）はモアイと呼ばれる巨大な彫像で有名です。
しかし最も有名な彫像は大英博物館にあることを、あなたは知っていますか？
しかもそれは、島民たちから盗まれたものです。以下がそのお話です。

Part1

物語は、1868年に英国船がイースター島に到着したときに始まりました。
乗組員は、丘の中腹に巨大な彫像が散在しているのを見ました。
ほとんどの像は損傷を受けていましたが、高さ約2.4メートルの小さめの像が1体あり、
完全な状態でした。

乗組員は島民に許可を求めずにその像を持ち去りました。
要するに、彼らはそれを盗んだのです。
彼らはビクトリア女王への贈り物としてイギリスに持ち込み、女王はそれを大英博物館に
寄贈しました。
それは「ロストフレンド」と訳されるラパ・ヌイ語の、ホアハカナナイアとして知られてい
ます。

約150年後、この物語は新たな展開を迎えます。
2017年、ラパ・ヌイの人々は、1888年以来チリの一部であった彼らの土地の支配権を獲得
しました。
彼らが最初にしたことの一つが、ホアハカナナイアをイースター島に連れ戻そうとする試
みでした。
彼らはロストフレンド（失われた友人）を帰国させるよう、大英博物館に依頼するため代表
派遣団を結成しました。

Part 2

2018年11月、ラパ・ヌイの人々の代表派遣団が、ホアハカナナイアを求めてロンドンに到着しました。

彼らは直ちに大英博物館へと向かいました。

彼を見つけ出して、彼らは深く感動しました。

彼らにとって、彼は島の生きた魂を表しています。

彼らは言いました「彼は単なる岩ではない、我らの兄弟です」と。

代表派遣団のメンバーの一人は、次のように説明しています。

「この博物館にとってホアハカナナイアは、単なるアトラクション（見世物）です。

しかし、私たちにとって、彼は家族の一人です。

像に目が追加されれば、それらは私たちの祖先の生きた化身となります。」

モアイには大きな空っぽの眼窩があります。

伝説によれば、色鮮やかな石とサンゴでできた「目」を入れると、モアイは生き返るのです。

代表派遣団のリーダーは博物館に対して次のように語りました、

「ホアハカナナイアは150年にわたって駐英大使を務めてきました。

彼を帰国させる時が来ました。

私たちは新たなモアイを作ってあなたがたにお送りします。」

Part 3

大英博物館は代表団を歓迎し、彼らの提案について話し合いました。
最終的に博物館側はホアハカナナイアを返還すると申し出ましたが、それは貸与としてのみでした。
それを恒久的に戻すことは拒否しました。

博物館は、モアイが島民の許可なしに持ち去られたことを否定しなかったのに、なぜ直ちに返還することに同意しなかったのでしょうか？

博物館側の観点からすれば、その彫像を保持すべき正当な理由があります。
イースター島には大英博物館にあるような、セキュリティや管理された環境状況がないため、像はロンドンにある方が安全です。
像は現在、離島にあるよりも、もっと多くの人に見られます。
学者たちはより容易に像にアクセスできます。
さらに、モアイは世界遺産に値すると主張する人々もいます。

これらの理由は道理にかなっています。
しかし、ホアハカナナイアが無断で持ち出されたという事実は依然として残っており、依然として人々の意思に反して拘束されています。
そのため、ラバ・ヌイの人々だけでなく、多くの人々が博物館の説明に疑問を投げかけています。

Part 4

批評家は、大英博物館がラパ・ヌイのロストフレンドの返還を拒否する本当の理由は全く異なると言います。

無断で持ち去られた美術品はホアハカナナイアだけではありません。

大英博物館は、その美術品の多くを植民地時代（16世紀後半から20世紀初頭）に入手しました。

そのリストには、ギリシャのパルテノン・マール、エジプトのロゼッタ・ストーン、今のナイジェリアのベニン・ブロンズが含まれます。

そして約23,000点の中国の美術品があります。

所有者たちは、盗まれた財宝の返還を求めています。

博物館がロストフレンド(失われた友人)を返還すると、それは前例を作ることになります。

世界中の美術館が同様の問題に直面しています。

何百年、何千年も前の芸術作品の正当な所有者は誰なののでしょうか？

これらの作品は現在、私たちの貴重な世界遺産の一部です。

例え正当な所有者が見つかったとしても、彼らがこれらの作品を安全に保管できると信頼できるのでしょうか？

偉大な芸術は世界全体のものであり、最も多くの人が安全に鑑賞できる場所に展示されるべきだとも言えるでしょう。

しかし、ラパ・ヌイの人々にとってこれらの問い掛けは、彼らの失われた家族の一員であるロストフレンドを家に連れ帰りたいという単純な人間の欲求よりも重要ではないのです。

Lesson 10 良き友、チャーリー・ブラウン

最初の『ピーナッツ』のマンガは 1950 年に現れた。

漫画家のチャールズ・M・シュルツは 2000 年に亡くなったが、昔なつかしいマンガは出版され続けていて、『ピーナッツ』の登場人物、とりわけスヌーピーは誰もが知っている。

Part 1

チャーリー・ブラウン。 ルーシー。 ライナス。 スヌーピー。

彼らは 70 年以上にわたって雑誌や新聞に登場してきた。

彼らには世界中に非常に多くのファンがいる。

お隣の家の子の名を知らない人が、自分が勝てると信じて疑わない、

可愛い「敗者」チャーリー・ブラウンを知っている。

いつも他人に忠告をする少女ルーシーを、お守りの毛布を常に肌身離さず持っている小さな男の子ライナスを、そして中でもいちばん有名な、自分を戦闘機のパロットや偉大な作家だと思っている、ビーグル犬のスヌーピーを知っている。

彼らがマンガ『ピーナッツ』の主な登場人物である。

なぜこのマンガはそんなに人気があるのだろうか。

『ピーナッツ』はなぜ世界中の人々の心を捉えたのだろうか。

マンガ『ピーナッツ』のいくつかの作品を見て、これらの質問の答えを見出せるかどうかみてみよう。

Part 2

父の日、チャーリー・ブラウンと友だちのバイオレットが、自分たちの父親について話している。

彼女は、自分の父はチャーリー・ブラウンの父親より裕福であり、スポーツでも勝っていると言う。チャーリー・ブラウンには言うべきことがほとんどない。

ただ自分の父の理髪店にいっしょに行こうとバイオレットを誘う。

そして父は自分を好きだから、どんなに忙しくても、必ず大きな笑顔をくれる時間があると言う。バイオレットにはそれ以上なにも言うことがない。彼女はただ立ち去る。

彼女の父のお金や運動能力は、ひとりの父親の息子に対する素朴な愛情に勝ることはできない。

『ピーナッツ』の多くのエピソードが、そのような家庭生活の心温まる側面に焦点を当てたものだ。

『ピーナッツ』を生み出した漫画家チャールズ・M・シュルツは、自身の子供時代の人々や出来事をマンガにした。

そしてこのことは、マンガ『ピーナッツ』が、世界中の人々の間でこれほど人気がある理由の一部分なのかもしれない。

Part 3

このマンガの中でライナスは、ホームチームがフットボールの試合に勝ち、大騒ぎしている。チャーリー・ブラウンは静かに耳を傾け、ライナスにひとつの単純な質問をする。

「相手チームはどう感じただろう？」

チャーリー・ブラウンは自分自身が失敗を経験しているの、しくじった他人の気持ちに敏感であることが大切だと分かっている。

彼は私たちに他の人のことを考えさせる。

多くの点でチャーリー・ブラウンは敗者だ。

彼はそんなに優等生でもないし、スポーツも冴えない。

クラスのかわいい女の子は彼に目もくれない。

富と力がとても重要な世界なら、チャーリー・ブラウンは落伍者だ。

しかしチャーリー・ブラウンは決して実際には負けていない。

彼は決して自分を憐れんだりしない。

彼はいつも、よりよい明日を望み、挑戦し続ける。

恐らく、それが真の勝者を作るものなのだ。

Part 4

『ピーナッツ』というマンガは普通なら、ゲラゲラと面白い訳ではない。

大笑いするというよりほほえむことの方が多い。

けれども、どういうわけか私たちを和ませてくれる。

明日の新聞で、チャーリー・ブラウンとライナスとスヌーピーと、その他すべての『ピーナッツ』の登場人物にまた会いたくなる。

彼らがそこにいないと、遠くに行ってしまった友人を思うかのように、寂しい気持ちになるだろう。

それは友だちがいつも私たちを笑わせてくれるからではなく、いつも私たち自身に安心感を与えてくれるからだ。

チャールズ・M・シュルツは、人生の本当の成功とは金や名声や権力の問題ではない、と訴えているように思われる。

むしろそれは、希望や勇気や他者への敬意、そしてなによりユーモアのセンスによって決まってくる。

彼はかつてこう言った、

「もし、若い人たちになにかプレゼントをする機会が与えられるとしたら、

私はひとりひとりが自分自身を笑い飛ばせるようになる能力を贈りたいと思います」

Part 5

ほぼ50年にわたってチャールズ・M・シュルツは、来る日も来る日も一度に一話ずつ『ピーナッツ』を描いてきた。

しかし1999年の暮れに、シュルツは自分がガンであり、これ以上続けていけないことを知った。

読者に別れを告げるべく、彼はお別れのマンガを描き、それは約6週間後に掲載された。

もし彼があと一日長く生きていれば、その印刷されたものを見ていただろう。

悲しいかな、彼はそのマンガが出る前日に亡くなった。

2000年2月13日、世界中の『ピーナッツ』ファンは目覚めると、『ピーナッツ』の登場人物とその作者の双方がもういないことを知った。

私たちは彼らを自分の友だちと考えるようになっていたが、その彼らはもはやいなくなってしまった。

チャールズ・M・シュルツと『ピーナッツ』は、その特有のユーモアと頑張り続けるための優しい励ましで、私たちがこの困難な世界に立ち向かっていく手助けをしてくれた。

新しい『ピーナッツ』作品が出ることはないだろうが、古い作品は今後も長年読みつがれるだろう。

それらは、真の成功が他者への思いやりや小さな親切の行いの中にあることを、私達に気付かせ続けてくれるだろう。

チャールズ・M・シュルツは、大きな困難に直面しても決して希望を失わないことが、大切であると分かったのだ。